

日本精神保健社会学会

THE JAPAN ASSOCIATION OF
MENTAL HEALTH SOCIOLOGY

<日本学術会議協力学術研究団体 No.1001>

ニュースレター第 68 号

発行人：宗像恒次 編集：山本美奈子

発行 2020 年 1 月 10 日

事務局：栃木県宇都宮市豊郷台 1-1

帝京大学宇都宮キャンパス

滝澤武研究室内

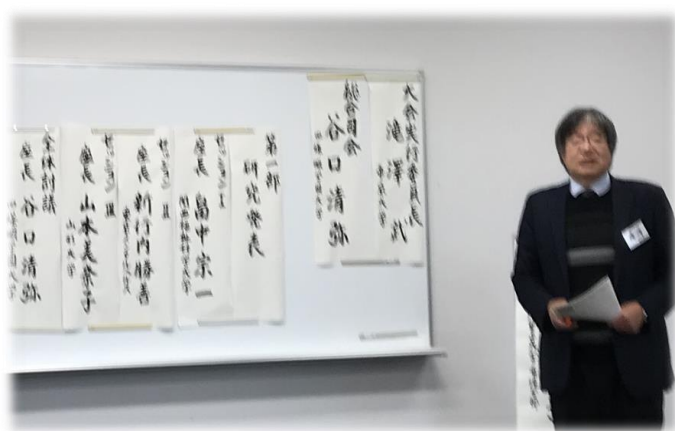
TEL&FAX 028-627-7188

E-mail: info@jamhs.org

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。
今回のニュースレターは、第25回の学術大会のご報告や参加者の声、会員の声、理事の現場からお届けします。

第 25 回 日本精神保健社会学会学術大会を終えて

○ 大会実行委員長 滝澤 武（帝京大学）



本年は、東京五輪・パラリンピックの開催年です。昨年、ラグビーワールドカップが開催され、海外のファンたちと各地域で交流が行われました。引き続き海外の人たちと交流し、東日本大震災から復興を世界に発信していくことになるでしょう。そして、私たちは自分や相手の本当の感情を共感しあい、自己成長

感を高め、レジリエントを高めていくことがより求められています。

このような社会状況のなかで、「メンタル不調から満足しあう生き方を学ぶ社会」をテーマに去る 11 月 23 日（土）、筑波大学東京キャンパスで 25 回目の学術大会を開催いたしました。午前の一般演題では、発表後の質疑応答の時間を長めにとり、「在宅ケアの孤独対策」「若者への居場所づくり」「悩みを抱える学生への就職支援」「発達障がい学生への支援」「依存行為への心理療法」「身体活動介入法」「SAT イメージ療法による介入」をテーマとした発表が行われました。フロアーとの活発な意見交換がなされ、充実した時間を持

つことができたと感じております。いずれのテーマも、社会への働きかけ・介入をとりあげており、本学会の特色である社会臨床的なものでした。

午後からのシンポジウムは、大会テーマである「メンタル不調から満足しあう生き方を学ぶ社会」へ変えるために、より具体的な目線で捉えようと、宗像学会長の基調講演の後、自らの悩みや家族が抱えておられた苦しみを乗り越え、同様の問題で悩む人々の支え手になろうとしておられるシンポジストからのお話をいただきました。フロアからの質問とシンポジストのみなさんとの対話を通じて、議論することができました。

オリンピックが開催され、復興を世界に発信することができても、メンタルヘルスのさまざまな課題はすぐに解決できるものではありません。今日の貧困、暴力、薬物依存、抑うつなどの社会的問題解決に具体的かつ実践的な対応策を導き出すために、日本精神保健社会学会の理論と方法が必要です。日ごろの介入実践をもとに、それを理論化し、社会に発表することで、満足しあう社会づくりに貢献していきたいと午前、午後の発表・シンポジウムで多くのことを学ぶことができた。

最後になりましたが、今回の学術大会を開催するにあたり、様々な方にご協力をいただきました。心より御礼を申し上げ、大会のご報告といたします。



参加者の声

○ 寺山 昇（コンサルティングオフィス 寺山）

会員の皆様、初めまして。2019 年秋から貴学会の山本理事にご紹介いただき入会いたしました寺山昇です。私は、2019 年 3 月に埼玉労働局を定年退官して 6 月から銀座で企業向けに障害者雇用にはフォーカスしたコンサルティングとキャリアコンサルタントの育成指導を行う「コンサルティングオフィス寺山」を開業しております。

これまでも出向で独立行政法人労働政策研究・研修機構 労働大学校の准教授として全国の労働局やハローワークの職員研修に携わったり、主に発達障がい、精神障がいのある方の職業訓練・就職支援を行う国立職業リハビリテーションセンターで就職支援にとりくんできました。

このような経緯から貴大会テーマの「メンタル不調から満足しあう生き方を学ぶ社会」にとっても関心がありました。当日は、所用で研究発表のみの参加でしたが、参加者が一堂に会して発表を聞き、討議していくのはとても新鮮で有意義でした。

また、フロアーと発表者との質疑応答も大変積極的に行われているのに感心し、とても理解が進みました。これを機会に、今後も大会やイベントに積極的に参加していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

会員の声 -日本精神保健社会学会に入会して-

○ 久保田昌治（株式会社ウオーターデザイン研究所 所長）

日本精神保健社会学会の会員になって、20 年からはなる。水を研究テーマにしている理系人間が、当学会のようないわゆる文系学会の会員というのは当学会の会員の中でも珍しいのではないかと思います。先ず興味を持ったのは、この学会の長い名称である。しかし、それだけ守備範囲も広そうだということだった。それにしても、日本精神保健社会学会の目的や守備範囲と水とはあまり関係がなさそうに見えるが、実際はかなり密接な関りがあると考えます。

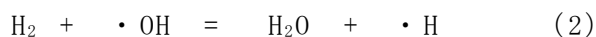
近年病気の 8～9 割は、活性酸素が関係していると言われている。活性酸素は、免疫の大本であり生命維持のために重要な役割を果たしている。しかし、過剰な活性酸素は、正常な細胞にまで傷つけたりして、がんを始めとした疾病の原因になったりする。ストレスが

活性酸素の重大な発生源になっていると言われて久しい。現代社会は、いろいろな面でストレスが発生し易い環境になっている。人と人との関係だけでなく、頻発する自然災害、さらに人工品の増加がある。自然界にない人工品の急増は、自然の産物である我々人間にとっては、異物でありストレスの発生源になる。しかし、現在人工品が無かったら地球上に 70 億人からの人が生きていけない。ここに人工品によるストレスを低減するためのデザインの重要性がクローズアップしてくる。

ところで、ストレスが活性酸素の発生源になるということはストレスエネルギー、広い意味での意識エネルギーが生体内の水に作用して、次の (1) 式の水のラジカル解離反応が起こるためと推測される。



この反応により生成したヒドロキシルラジカル ($\cdot\text{OH}$) は、生体内で最も強力な活性酸素であり、生体に対する影響は極めて大きい。我々が放射性元素や化合物を恐れるのは、これらの物質が放出する γ 線が生体内の水に作用して上記の (1) 反応が起こるためである。最近、水素や水素水が注目されてきているのは、水素が次の (2) 反応によりこのヒドロキシルラジカルを安定な水に変えてくれることが明らかになったからである



水素は、今後治療医療のみならずますます重要度を増す予防医療の面で重要な役割を果たすと考えられる。このように我々の精神状態と生体内の水は密接な関りがあり、生体内の水をどのような状態に保つかが健康の維持・増進とも密接な関りがあることが分かる。

学会は議論する場であり議論することは重要であるが、学会活動が社会に役立つということはそれに劣らず重要なことである。例えば、現在いわゆる引きこもりと言われる人達が我が国では 100 万人からになるという。これらの人達が普通に活動するようになったら、大きなパワーになることは間違いない。引きこもりになる原因は、いろいろあると思う。本人もそれなりに悩んでいると思われるが、周囲はそれ以上に悩み苦しんでいる。しかし、今のところ、引きこもりに対する具体的な処方箋がないのが現状である。現在こんなに引きこもりが増えてきているということは、何か原因があるはずである。この問題は、当学

会の守備範囲に入るものでもあり、その原因を究明し対策を提案できたら、大いに社会に貢献出来る。

理事の現場から—教育・研究・臨床—

○ 谷口 清弥（四條畷学園大学）

2018 年 11 月 9 日～14 日、日本看護学校協議会共済会によるタイ医療関連施設訪問見学ツアーに参加しました。思いきって参加したツアーでしたが、期待以上の学びと体験がありましたので、そのことを書きたいと思います。

首都バンコクにあるサミディヴェート病院は、国際基準の三次医療機関として高度かつ先進の医療を実践しています。タイをはじめ世界の富裕層が受診に訪れます。病院は、高級ホテルのような造りで、すべての医師は独立開業で、医療行為ごとに個人で費用設定する自費診療です。また、タイには日本人在駐者及び旅行者が多く、年間述べ 13 万人、一日約 400 人の日本人患者が受診しており、日本国外で最も多く日本人が来院する病院です。日本人相談窓口、日本語通訳が診察時の通訳や様々な手続き案内を 24 時間年中無休で行っています。

看護教育の場として、メーファールワン国立大学を訪問しました。学部長、学科長、各領域代表の先生方と意見交換会を設けていただき、両国の看護教育の現状を情報交換しました。メーファールワン国立大学は、東南アジア各国から学生が集まる国際的な大学で、授業はほぼ英語で行なわれています。准看護師教育は数年前に廃止され、現在は 4 年制大学卒のみが国家試験受験資格を得られるため、看護師の地位は高いものとなっています。看護教育のカリキュラム内容はほぼ日本と同じで、看護師国家試験は 3 回に分けて実施されるため、概ね全員合格するという羨ましい話も聞きました。広大な敷地の自然の中にキャンパスがあり、講義室や実習室などの設備も充実していました。

これらの施設とは対照的だったのが、タイ北部のミャンマーとラオスの国境近くにある国立メーサイ病院です。この地域の中核病院ではありますが、病棟は女性病棟・男性病棟・小児病棟の 3 病棟で、クーラーもなく古い医療器材を使用しており、日本の半世紀前を思わせる医療環境でした。ミャンマーからの受診者も多いのですが、民族（少数民族が多くいる）により言語が違い、ID（マイナンバーのようなもの）を持たない人も多く、様々な

問題・困難があると聞きました。また、結核・エイズ・デング熱が3大感染症として問題となっており、その拠点病院として取り組まれていました。

このようにタイ都市部ではサミディヴェート病院のようにホテルのような病院が成り立っている一方、地方ではまだまだ古い医療機器を大事に使っている病院があるという二極化が現状です。また、看護教育制度は、4年制大学教育に一本化され、看護職の質と地位の向上に向けて動いています。また、医療ツーリズムの推進という背景を受けて、大学でも英語による授業や留学生の受け入れなど国際化に力を入れていることがわかりました。

これらの研修以外にも、アユタヤ遺跡をめぐりアユタヤ王朝時代に思いを馳せ、さらに、かつて世界最大の麻薬・覚醒剤密造地帯であったゴールデントライアングル地帯を訪れ、悲しい歴史を目の当たりにしました。そして、昨年世界的なニュースとなったサッカー少年たちが増水した洞窟から救出されたタムルアン洞窟にも訪れ、救出作業がどれほど過酷なことだったかを実感しました。このように、充実した研修日程に加えて、訪れた大学の先生方、病院の医師や看護師さん達との交流がとても心温まるものでした。歴史と文化、人、そして変わろうとする姿に触れ、とてもいい経験となりました。

会費納入のお願い

本学会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられております。2019年度の年会費は、2019年10月1日から2020年9月30日の期間です。今年度の年会費納入をお願いいたします。なお平成29年度の会費納入がまだ済まれていない方は、速やかにご納入くださいますようお願い申し上げます。会費、振込み先は以下の通りです。

会費 通常会員 5,000円 学生会員 3,000円

振込み先 ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

なお、前年度の未納分を併せてお振り込み頂く場合、今年度会費に未納会費を加えた金額を記入の上、通信欄に「〇〇年度分と2年分」とご記入下さい。

退会をご希望の方は未納分の年会費をご清算の上、退会届（書式自由）を学会事務局にご提出ください。その他ご不明な点がございましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい。

機関誌「メンタルヘルスの社会学 Vol. 26」の原稿募集

年報編集委員会では、会員の皆様からの原著論文を募集しております。また、総説、研究報告、実践報告、短報、研究ノート、資料等もお待ちしております。論文の書式は年報の執筆要項をご覧ください。なお、タイトル、抄録の英文についてはネイティブチェック（専門校閲）を必ず受けるようにしてください。

●原稿締切：2020年7月10日（金）厳守

●送付方法および送付先

* 郵送のみの受付となります。 詳細は、投稿規定をご確認ください。

〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台1-1 帝京大学宇都宮キャンパス

滝澤武研究室内 日本精神保健社会学会事務局

日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきました。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見だし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。

様々な分野の方々が、ご入会くださるよう期待しています。

2. 指針

- ①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。
- ②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。
- ③国際的にも仲間づくりをすすめていく。
- ④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。
- ⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。
- ⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先: 〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台1-1 帝京大学宇都宮キャンパス 滝澤武研究室内

日本精神保健社会学会事務局 TEL & FAX: 028-627-7188、E-mail: info@jamhs.org

入会金: 5,000 円

年会費: 通常会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員一口 10,000 円（一口以上）、機関会員 20,000 円

送金先: 郵便振替 00170-6-613036 加入者名 日本精神保健社会学会

※ E-mail、FAX、郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏 名		生年月日	西暦 年 月 日 歳 (男 ・ 女)
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員 を希望する	連絡先	所属・自宅 を希望する
所属名 及び住所	〒 TEL: FAX: E-mail:		
自宅住所	〒 TEL: FAX: E-mail:		
所 属 系 (○印)	社会学・文化人類学・経済学・哲学・心理学・社会福祉学・教育学・看護学・医学・保健学・栄養学・体育学・地理学 行政学・政治学・その他()		
関心領域			